

根津鋼材

枚数測定装置を導入

浦安事業所

トレーサビリティ強化

大手コイルセンターの根津鋼材(本社+東京都荒川区、根津鋼光社長)はこのほど、浦安事業所(千葉県浦安市鉄鋼通り)のレベララインに「枚数測定装置」を導入した。加工したカットシートの枚数を自動計測し、基幹システムとも連動させ、効率化やトレーサビリティ強化につなげる。

パイラーから払い出され、1ロットに集積されたカットシートを山を同装置に搭載した

カメラで撮影。画像処理の末、1〜2秒のうち枚数を測定する。同時に枚数データは生

確認。一致していれば、モニターに「OK」と表示される。加工した枚数は既存の測定装置でも数えてあるが、二重チェック体制を敷き、需要家からの信頼性を高めるとともに、自社の基幹システムと連動させるこ

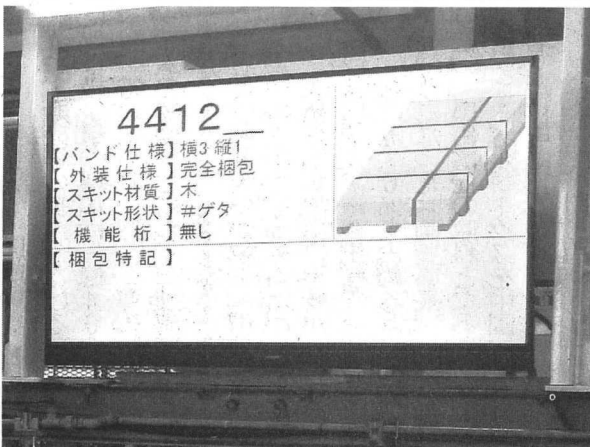
とで、煩雑な照合作業などの簡略化を図る。出荷済みのデータも一定期間保管しており、万が一納入に絡むトラブルが発生しても、加工時の状況まで追跡できる。

5月の運用開始以来、試行錯誤を重ね、現在では97〜98%まで精度が向上した。浦安事業所で成果が上がったこ

とから、他拠点にも水平展開していく方針。



枚数測定装置



モニターを見ながら梱包作業ができる

同社の加工ラインにはモニターが多数設置され、「加工指示書」や「客先別仕様」過去のクレーム情報」のほか、スリッターでは刃組みの図面も確認できるが、新たに梱包作業スペースにも特殊な梱包が必要な際に「客先別の梱包仕様」を表示するモニターが加わった。ボトルネックとな

りやすい梱包作業を少しでも効率化するのが目的だ。特殊な梱包を必要とする製品が梱包スペースに送られてくると、50センチ大型モニターに梱包仕様が自動で表示。繁忙期に他拠点から応援で来た場合などは、従業員が事前に客先別の梱包仕様を一つ一つ覚えておくことは難し

い。マニュアルを見ながら作業するよりも、手を止めなくて済む分、作業性は向上する。目黒富司夫浦安事業所長は「効率化によって、リードタイム短縮を図るだけでなく、より丁寧な梱包作業も心掛け、荷姿のきれいさでも他社との差別化につなげていきたい」と話している。

梱包モニター運用開始